

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : LRT を活かしたまちづくり(1)	
日付 : 6 月 7 日 (土) 曜日, セッション時間 : 13:00 ~ 14:30	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 小谷通泰 (神戸大学), 松中亮治 (京都大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体 :</p> <p>国内の事例 (2 事例 : 富山, 堺) や国内の路面電車のデータを用いた分析, さらには, 海外の分析「ドイツの路面電車導入都市における分析, フランスでのアンケート分析」といった幅広い発表がなされ, 以下に示すように活発な議論がなされた.</p>
	<p>(342) 松田 南 (神戸大学) :</p> <p>支払意思額が月数百円というのは社会的な様々な効果を考えると低いのではないかとこの質問がなされ, これに対して, 今回の支払意思額は利用の際に支払っている料金に加えての支払意思額であるため, こうした結果となったと考えられるとの回答がなされた.</p>
	<p>(343) 伊藤 雅 (和歌山工業高等専門学校) : 対象とした都市の特性について質問がなされ, それに対して, 人口 10 万から 100 万未満の都市を対象としており, 都市内公共交通の導入状況以外に相異はないとの回答がなされた. また, 来街者が多い街ほど利用者が多い結果となるのかとの質問に対して, データの性質上そうなるとの回答がなされた.</p>
	<p>(344) 鈴木義康 (日建設計総合研究所) : LRT 単独ではなく, トランジットモールなどの施策も併せて実施する必要があるのではないかとこの質問に対して, フランスでは, LRT の導入目的として, 交通対策という側面以外にも, 社会福祉政策や中心市街地活性化についても目的とされており, パッケージ型施策の実施は重要であるとの回答がなされた.</p>
	<p>(345) 松本昌二 (長岡技術科学大学) : 運賃を値下げすると便益が発生するとのことだが, 利用者数に影響を及ぼすものとしては, 運賃以外にも, 中心市街地の魅力などのファクターも重要ではないかとのコメントがなされた. これに対して, そういった要因も重要ではあるが, 今回は, 路面電車の利用者を増加させる方策の一つとして需要関数モデルを用いて分析したとの回答がなされた.</p>
	<p>(346) 塚本直幸 (大阪産業大学) :</p> <p>阪堺線は大阪市内にも路線があるが, 大阪市の方では何か動きがあるのかとの質問がなされ, それに対して, まだ大阪市の方では本格化的な検討はなされていないが, 今後, 堺市の方のプロジェクトが進めば, 検討せざるを得ないのではないかとこの回答がなされた.</p>